

# なかがわ

広報

2016. 4



町のイメージキャラクター  
「なかちゃん」



No.127

- 平成28年度那珂川町予算 2
- 平成27年度全国体力・運動能力調査結果 6
- ホースヘッズ村海外体験学習報告 8
- 平成28年度職員配置一覧 12
- 卒業おめでとう 15



卒業おめでとう  
(馬頭東小学校)

# 広報 展示室

第127回

二代歌川広重(1826～69)は、初代広重と同じ定火消同心の家に生まれました。本姓は鈴木氏、のち森田氏、名を鎮平ちんぺいといました。10代で初代広重に入門、画号は重宣しげのぶと名乗っていました。20歳で初作を制作したと推測され、晩年の広重に良く遣え、初代広重の作品の多くに二代広重の痕跡を残しています。特に初代広重の代表作肉筆画「天童広重」の一群や錦絵「名所江戸百景」については二代広重に負うところが大きいです。しかしこの作品の制作途中で初代広重が安政5年9月6日に亡くなります。翌年に重宣が安藤家に婿養子に入り2代広重を継ぎ、1図描きました。

図のシリーズ「諸国名所百景」は100図完結しませんが、この作品は二代広重の代表作とされています。

図は大門や仲ノ町の桜樹と岩亀楼が描かれています。岩亀楼の入口には提灯がひとつ掲げられ「岩亀楼」と書かれ、三階は黒壁で塗られています。岩亀楼は横浜開港と同時に造られた遊廓で、場所はいまの神奈川県横浜市中区横浜公園(横浜スタジアム)辺り。安政6年3月から太田屋新田15000坪を突貫工事で埋め立てを3ヶ月で完了させました。遊廓内は遊女屋15軒、遊女300人、茶屋27軒で構成され、経営は江戸の吉原を、外国人の接待は長崎丸山の遊廓を手本としました。この岩亀楼の豪華さは際立ち、蜃気楼か竜宮城の様な内装だったといえます。岩亀楼をつくったのは品川で遊廓を経営していた岩槻屋佐吉いわつきや さきち。建物の面積は約2660㎡、庭約670㎡、建物の内部は3階建て中庭が吹き抜けの構造になっていました。さらに異人館と倭人館に分かれ、行き来が出来ないようになっていました。夜は遊廓として経営

## 企画展

# 「二代広重の諸国名所絵展」



諸国名所百景 武州 横浜 岩亀楼

していましたが、昼間は一般の庶民に開放し見物料を取り内部を案内し最後にお茶菓子とお茶を出したといえます。しかし、慶応2年(1866)11月遊廓近くの豚屋火事ぶたやかじの火の粉が飛び火し遊廓全体が焼失しました。

馬頭広重美術館 館長 市川 信也

【会 期】 4月22日(金)～5月22日(日)  
【開館時間】 午前9時30分より午後5時まで  
(但し入館は午後4時30分まで)

【ミュージアムトーク】

4月23日(火) 午後1時30分～

【休館日】 月曜日、祝日の翌日

【入館料】 大人 500円(450円)  
高・大学生 300円(270円)

※( )は20名以上の団体料金。

※中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額



平成27年度

那珂川町観光写真コンテスト受賞作品

入選「森の妖精」

撮影者：平山 靖夫さん(那須塩原市)

撮影地：富山

杉林に陽が差し込み、色合いの良い花に陽が当たっていたので、花に合わせスポット測定で廻りを暗く、花がひき立つ様に撮影しました。(平山さん)

